

1987年6月19日

て研究を開始したということから始まり、最近のNASAまで紹介が行われる。NASAについては述べるまではあるまい。世界の宇宙開発をリードして来た総本山である。JPLのような研究スタイルをミッションオリエンテッドといい未知の大目標を定め、これを開拓していくものである。映画の内容はアメリカの最も輝かしい分野を示すもので、誇りに満ちている。

JPLの映画を見ていると“新らしいこと以外は下らぬことだ”という考え方が彼等の中に育って来ることがよくわかる。私は長いこと疑問に思っていたアメリカ人の性格の一つが分かったような気がする。これは第3部で述べたようにアメリカでは評価の定まらぬ新らしい計算機が売れることである。全体のバランスの良さよりも、一つ新らしい試みの有る計算機が売れるのである。これがわからなかったが、やっとわかった気がする。いつも未知を求めて追って来た人にとっては新らしい試みのみが価値があり、面白いものであり、自慢の種なのである。いつも新らしいことばかり考えていると、新らしさに敏感になって真に新らしいもの以外は価値なしと思えてくるのであろう。

カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD)。

20日、18:00 ロスアンジェルス発サンディエゴ行き約20人乗りプロペラ機は、フラフラと滑走路を離れた。ロスアンジェルスの夜景はすごい。金、銀をぎっしりと散りばめたようにオレンジ色に輝く。こんなに化石燃料を消費してよく使いつくさないものだと思う。フラフラフラと風にあおられ心配したが、それにもまさる睡魔でぐっすりねこむ。

サンディエゴ

クオリティインに泊まり翌日カリフォルニア大学サンディエゴ校へ。パークレーの弟分である。サンディエゴはのどかである。

。私には米国で最も安全な町に思えた。

UCSDでは電総研から留学中の石川氏にお世話になり、今をときめくランメルハート教授に会う。この人は“並列分散処理 (PDP)”という一学問分野を確立しつつある人で約40歳、心理学出身なのでどことなく優しい感じである。私達も数年前PDP関連への進出を考えたことがあったが、暗闇にしか見えず退散した。

この教授はそこに光をともした。教授と最近の研究について話していると、私には暗闇にしか見えないところに光が見える。先生は真っ暗やみの中をたいまつをつ

けて人々を導いていく感じである。感動である。世界中に何人もいない人はやはり輝いている。この先生
7月からスタンフォード大学に移る。世界中から優秀な人がアメリカに引きぬかれ、その中で最も優秀な人がスタンフォードに引きぬかれる。アメリカの中のアメリカを見る思いがする。

20日 石川家泊。疲労のせいか体調が悪い。石川家で雑炊を作ってもらい安らかにねむれたので再び体調を戻し出発。

東へ。

5年前の留学時に課せなかった東部への旅が実現することになった。

いざ出発

ボストン。

2月20日(土) サンディエゴ9:50発シカゴ経由ボストン着17:00。

ボストンからタクシーでパークプラザホテルへ。はじめての東部である。

最初の驚きはタクシーの運転席と客席を隔てるアクリル板である。運転手とのやりとりは10cm程度の小窓で行う。西部や南部でタクシーに何度か乗っているが、こんなに完全遮蔽したところはない。ホテルではドアが見たことのない構造で、ドアに洗濯物を出すための小窓があり、そこに洗濯物を入れ又そこをロックするようになっている。物騒なところと思うほかはない。私の好きな自由もつまるところが、これかと思うと残念な気がする。

2月21日

午前中、ヒストリカルトレイルというボストンの歴史道路を歩く。茶会事件のために集合した教会やポールリビアの家などがきれいに保存されている。抵抗の歴史である。自由のための戦いの声が聞こえるような感じがする。

ボストンは日本の京都にたとえられるが、日本の萩といった方が良いと思う。日本語案内書が歴史的な話をよく書いてないのは残念である。茶会事件ぐらいは知っているが其の他はよくわからない。たとえば、ポールリビアは、米で人気のある人で、馬で何かを伝えたことで有名らしいということは、ポールリビアの家の案内板からわかるのであるが、どんなことを伝えたのかわからない。外国の都市ごとの歴史文化を書いた書物がほしいと思った。

ホテルはボストンコモンという公園(広場)に面している。ホテルの1階にシーフード屋があり、ロブスターが食えるが、この店で予約してから食べられるまでは1時間かかる。ロブスター料理には>のような形の甲こわしとビニールが付いて来た。ウエイトレスにロブスターの食べ方を教わる。ビニールはエプロンであった。味は跳び上がるほどはうまくない。かたくて消化が悪そう、カニのほうかうまいと思う。